

銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号
加藤金属興業株式会社

◎ 平成 30 年 2 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

2 月	1 日	～	810 円/Kg
2 月	6 日	～	820 円/Kg
2 月	8 日	～	790 円/Kg
2 月	15 日	～	800 円/kg

平成 30 年 2 月度は平均で 801.50 円/kg となり、前月比 24.20 円/kg の値下りとなりました。

海外銅価の動き

- ① 2 月の LME 銅相場 2/1 ～ 2/27 (安値ドル 6,755.00～7,159.00 高値ドル)
2 月の NYC 銅相場 2/1 ～ 2/27 (安値セント 302.45～324.30 高値セント)

2018 年 2 月度の LME 現物は、2/1 \$7,027.00 でのスタート。昨年末に \$7,000 を越えてからは、さすがに大きく越えるところまでは伸びなかったが、当たり前のように \$7,000 前後をキープする形で推移。在庫も 30 万 t を超えるところでのスタートとなった。しかしながら、6 日米ダウが過去最高の下げ幅を記録、世界の株価が大幅安の影響を受け \$7,000 を切るも、結果は踏み止まる形となった。2/中には中国の春節に入ることから、動きの少ない相場になると見られてはいたが、結果的にはドル安と株価の回復により、\$7,000 台をキープする結果となった。LME 在庫は 2/27 付、33 万 t にまで増加している。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2017 年 12 月 資料より (単位/千トン)

	2015年 実績	2016年 実績	前年比	2017年 予想	前年比	2018年 予想	前年比
全世界地金生産	21,959	22,758	+3.6%	22,881	+0.5%	23,314	+1.9%
全世界地金消費	21,933	22,523	+2.7%	22,975	+2.0%	23,414	+1.6%
全世界需給バランス	+26	+235		-94		-100	

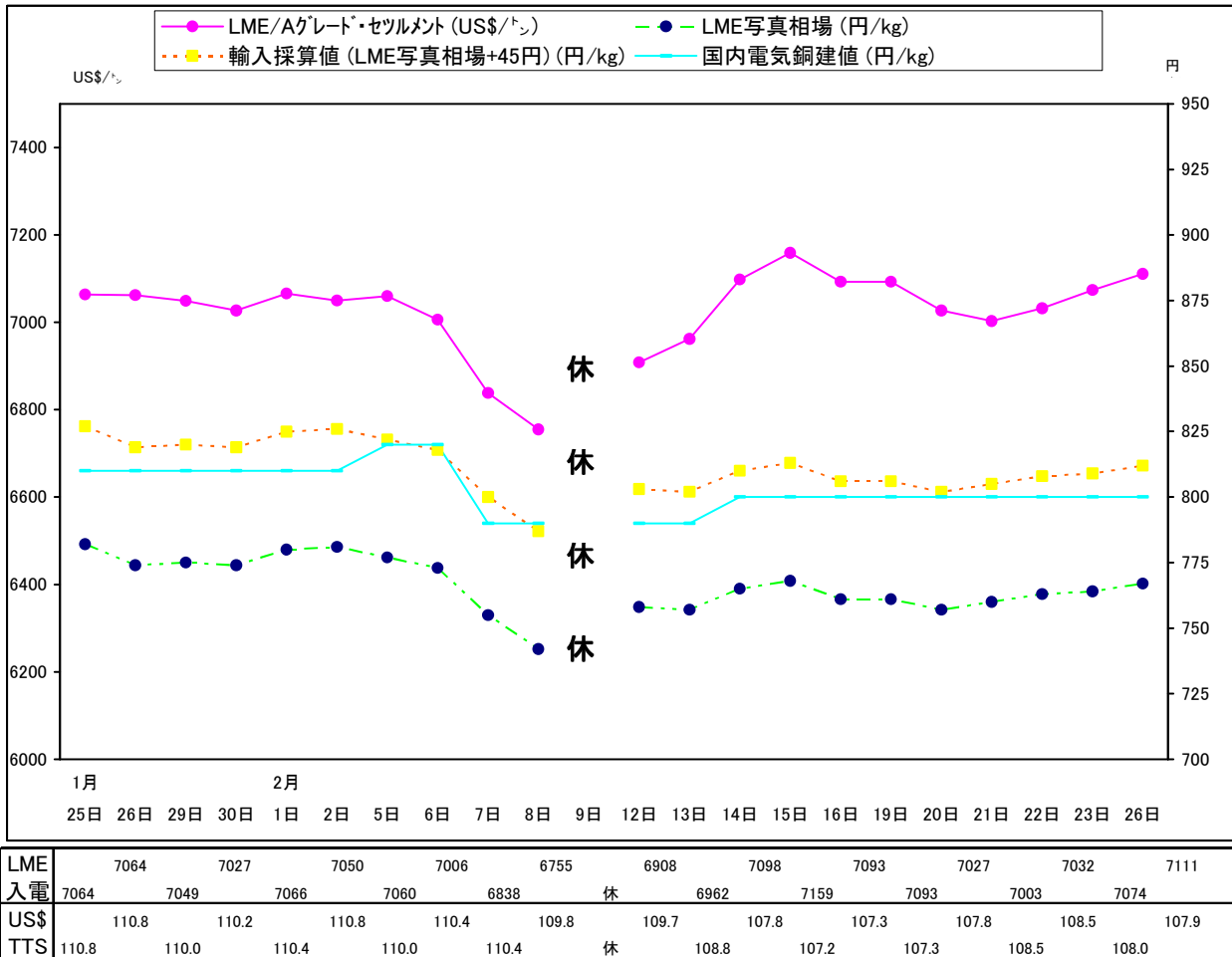
先行き短期見通

国内銅価

2 月度の国内建値は 1 日 810 円/kg でスタート。2/6 には国内建値を 820/kg に上げるも、8 日には株価の暴落の影響などから、\$7,000 を割込む動きとなり、790 円/kg へと下げる形となった。しかしながら、この影響も長く続かず、比較的短期で \$7,000 台へ復帰。国内建値も 15 日に 800 円/kg へと値を戻す結果となった。

2/27 付 LME \$7,028.00、27 日付 為替 (TTS) 1USD=107.87 円で日本円換算計算値 758 円/kg。2018 年 2 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限りでは、800 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成30年2月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 2月 1日 ~ 442 円/kg
- 2月 7日 ~ 436 円/kg
- 2月 13日 ~ 418 円/kg
- 2月 16日 ~ 430 円/kg

平均431.60円/kg

平成30年2月は上記の通りで前月比 1.60 円/kg の値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	2月	340.50 円/kg	(前月比-	6.80 円/kg)
電気錫(相対)	2月	3,800.00 円/kg	(前月比+	100.00 円/kg)
ニッケル(溶解用)	2月市中価格	1,600.00 円/kg	~	1,650.00 円/kg
銀	1月平均	62,510.00 円/kg	(前月比+	2,540.00 円/kg)
	2月27日	58,670.00 円/kg		
金	1月平均	4,772.74 円/g	(前月比+	164.96 円/g)
	2月27日	4,614.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

平成30年1月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		12月度実績	1月度速報	前月比	前年1月度実績	前年同月比
銅	板	1,217	1,117	-8.2%	1,276	-12.5%
	条	22,153	20,896	-5.7%	19,892	5.0%
	管	9,047	8,898	-1.6%	9,281	-4.1%
	棒	2,161	2,305	6.7%	2,117	8.9%
	線	286	270	-5.6%	248	8.9%
黄銅	板	533	504	-5.4%	535	-5.8%
	条	8,782	8,143	-7.3%	7,747	5.1%
	管	612	583	-4.7%	581	0.3%
	棒	15,045	15,029	-0.1%	14,850	1.2%
	線	2,319	2,140	-7.7%	2,352	-9.0%
青銅	板	2,743	2,666	-2.8%	2,554	4.4%
	条					
	棒	249	208	-16.5%	244	-14.8%
	線	64	81	26.6%	64	26.6%
洋白・その他	板	501	463	-7.6%	444	4.3%
	条					
	棒	41	45	9.8%	35	28.6%
	線	464	379	-18.3%	334	13.5%
合計		66,217	63,727	-3.8%	62,554	1.9%

1月の伸銅品生産速報は、63,727トンで前月比マイナス2,490トン、前年同月比プラス1.9%となり、前年同月比が5ヶ月連続でプラスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の17年11月分実績及び12月分推定によれば、11月分は通信、電気機械、建設電販、その他内需の4部門が前年同月を下回ったため、総計は6万2千426tで前年同月比0.2%減と僅かに前年を割り込んだ。結果、9ヶ月振りに水面下に沈んだものの、6万tを維持し比較的高水準にある。

一方、12月分推定は通信、電力ケーブルが冴えず大幅に落ち込むほか、建設電販が同1.0%減となり3部門が前年同月を下回るものの、自動車やその他内需など4部門が伸び、総計は5万7千500tで同0.7%増と翌月には増加に転じる見込み。

結果、17年暦年(1～11月実績 12月推定)見通しは、輸出(前年比21.0%増)が大きく伸び、自動車(同9.0%増)その他内需(同6.3%増)が大幅に伸びたほか、電気機械(同0.7%増)建販(同0.1%増)が微増を確保し、通信と電力以外は増加した。

11月分の部門別出荷をみると前年同月比でマイナスグループは4部門。通信はPECなどの伸び悩みが影響し、同18.4%の減少。電気機械は家電向けが鈍化し同2.3%低下し、前年割れ。建設電販同1.1%、その他内需同7.1%それぞれ減少した。

一方、プラスグループは3部門。電力は14か月連続で減少したが、ようやく増加に転じ、同2.4%増加した。自動車は生産台数が増加している事から19か月連続で前年増。輸出は電力ケーブルのスポット需要で同59.5%増と4ヶ月連続して大きく伸びた。

2017年11月分(実績)・2017年12月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	11月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	12月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	11月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	867	▼12.0	▼18.4	800	▼7.7	▼24.2	1,510	(▼9.9)	6.5
電 力	(1,224) 4,778	(▼18.8) 4.3	(▼10.3) 2.4	(1,100) 3,100	(▼10.1) ▼35.1	(▼0.3) ▼12.1	1,086 5,219	(▼9.0) 4.3	(27.9) 17.1
電 気 機 械	(449) 13,263	(▼0.4) ▼0.2	(4.4) ▼2.3	12,600	▼5.0	0.0	426 17,705	(0.7) 0.5	(8.1) 6.6
自 動 車	(90) 7,069	(▼9.1) ▼3.7	(15.4) 3.2	7,000	▼1.0	8.0	389 31,951	(▼6.7) ▼1.3	(25.5) 5.7
建 設・電 販	(27) 29,974	(▼65.8) 1.1	(28.6) ▼1.1	27,900	▼6.9	▼1.0	25 35,176	(▼60.9) 2.8	(13.6) 16.1
そ の 他 内 需	(74) 4,550	(72.1) 1.5	(▼2.6) ▼7.1	(500) 4,300	(▼21.9) ▼5.5	(▼11.5) 3.7	66 7,311	(61.0) 4.8	(13.8) 17.7
内 需 計	(1,864) 60,501	(▼14.5) 0.3	(▼5.3) ▼1.4	(1,600) 55,700	(▼14.2) ▼7.9	(▼9.3) ▼0.5	1,991 98,871	(▼7.0) 1.0	(21.9) 10.8
輸 出	(292) 1,925	(29100.0) ▼17.1	(▼22.5) 59.5	(100) 1,800	(▼65.8) ▼6.5	(▼85.0) 64.1	155 5,564	(1837.5) ▼14.3	(▼5.5) 20.3
合 計	(2,156) 62,426	(▼1.1) ▼0.3	(▼8.1) ▼0.2	(1,700) 57,500	(▼21.2) ▼7.9	(▼30.0) 0.7	2,146 104,435	(0.0) 0.1	(19.4) 11.3
心 線 販 売	(1,265) 32,463	(26.2) 2.2	(17.2) 0.5	(1,000) 28,800	(▼20.9) ▼11.3	(24.2) ▼1.1	324 25,113	(22.3) 5.8	(31.7) 37.6

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2017年11月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	4,590	3.2	7.3	4,100	5.5	46.4	
巻線	12,100	0.0	0.3	12,145	0.3	9.5	
機器用電線	3,780	0.0	6.8	10,938	1.6	14.6	
通信用電線・ケーブル	1,632	▼3.8	▼10.5	3,547	▼3.9	2.5	
電力用電線・ケーブル	22,823	1.0	1.6	23,459	1.3	20.4	
被覆線	11,744	▼3.1	▼7.9	16,549	▼0.9	7.8	
輸送用電線	5,757	▼2.5	1.8	33,679	▼1.0	5.0	
銅電線計	62,426	▼0.3	▼0.2	104,435	0.1	11.3	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	78	4.0	1.3	270	5.5	2.3
	電力用電線・ケーブル、被覆線	3,133	3.5	▼8.0	3,658	2.7	4.2
計	3,216	3.5	▼7.8	3,950	2.9	4.0	
アルミ電線計	2,156	▼1.1	▼8.1	2,146	0.0	19.4	
光製品	4,520,323	8.7	13.4	21,472	▼0.4	▼10.7	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	4,150	▼4.0	▼10.4	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場の第1・2週は、財新発表の中国PMIが51.5と好調だった前月の水準を維持したことで上昇材料を持ってスタート。週半ばの世界的な株安の進行で、投資家のリスク回避ムードが高まり、リスク回避資産の非鉄にも売りが入るが、株式市場の回復が早く、非鉄もすぐに戻す形となった。ドイツの大連立協議は終了したが、不透明な部分が依然として残りユーロ安ドル高が進行し、LMEには下押し材料となる。第3週は連日、リスクセンチメントによって相場が乱高下する展開が続く。在庫が15万トン以上増加したことで上値は限られる。2014年から約400万トン減少したLME在庫であるが、在庫増によっては、下押し圧力になる状況。週末、LME指定倉庫在庫は前日比3万トン増となる。第3週中国勢が春節で不在な上、米国も休日が有り、狭い範囲での値動きが続く。米国アルミ関税案に関する懸念、LME指定倉庫在庫が、純増と\$2、200前後の様子見相場となる。最終週、中国春節は明けたものの、SHFEの取引高も依然閑散としている。買い意欲も低く、一旦収まったLME指定倉庫在庫の純増が再び見られ、相場を下押し。目先\$2、150前後での展開を予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2018年2月積 2,293.00～2,281.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2018年2月積 263.80～262.40 円/kg
- ・NSP 2017年12月 286.4 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2018年1月～3月 300.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'17年12月	'18年1月	'17年1月
月生産	*2,374.0	2,370.0	2,318.0
平均日産	*76.6	76.5	74.8

(*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

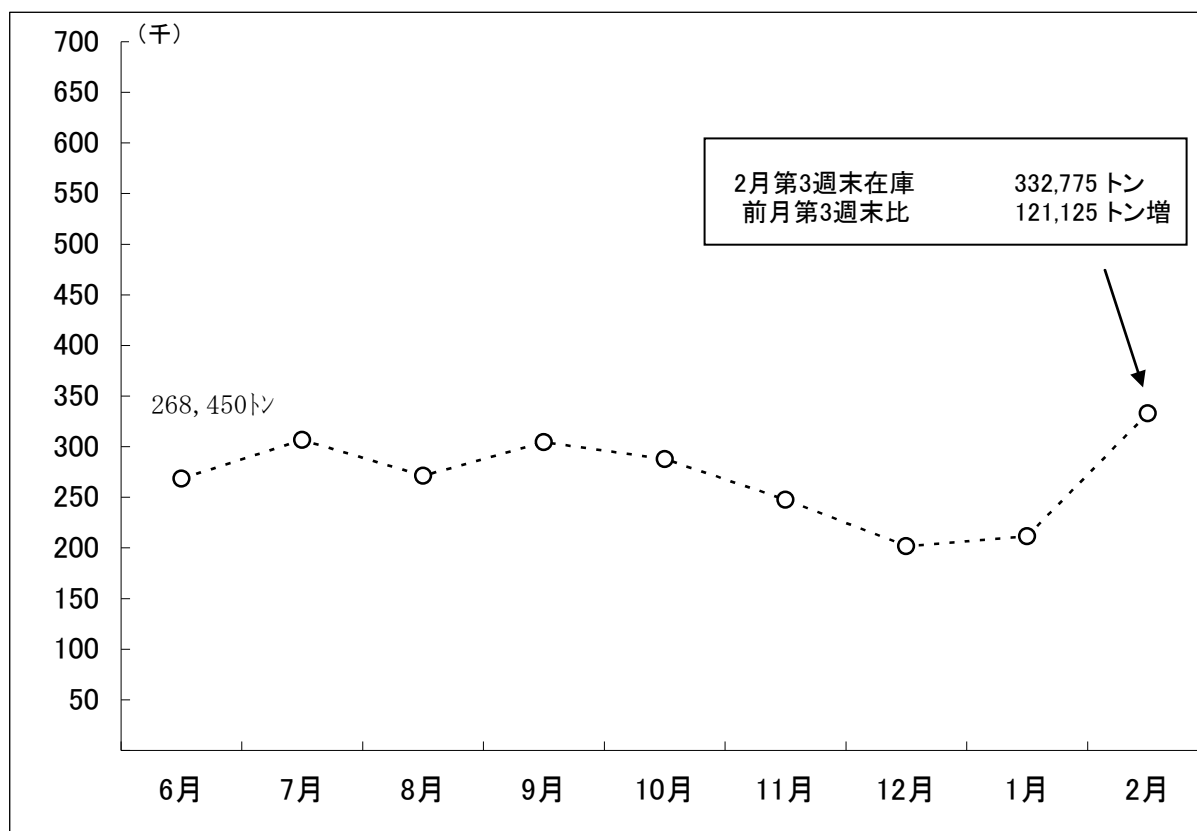
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2016年10月	2017年11月	増減	2016年11月	増減
横浜	119,100	117,300	-1,800	116,100	+1,200
名古屋	105,600	102,600	-3,000	111,300	-8,700
大阪	15,000	15,000	±0	12,500	+2,500
合計	239,700	234,900	-4,800	239,900	-5,000

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫（各月第3週末参考）



◎ COMEX在庫（第3週末）

・ 30年2月16日現在 226,308 S T 前月比 12,881 S T増

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 30年1月末 104,093 トン 前月比 9,055 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 29年12月確報 66,217 トン
・ 30年1月速報 63,727 トン 前月比 96.0 %

◎ 電線出荷実績

・ 30年1月速報 53,100 トン 前月比 92.3 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 29年 12月	板 類	103,795 トン	
	押 出 類	67,151 トン	
		170,946 トン	前月比 98.0 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。